

乾燥用スノコを利用した早期稲の籾乾燥法試験

吉松進・立石昭・陣野久好
(長崎県総合農林センター)YOSHIMATSU, S., TATEISHI, A. and JINNO, H.
On the Drying Method of Unhulled Rice by Sunoko
in the Early Seasonal Cultivation

切干蒔用の竹スノコを利用した簡易な早期稲の籾乾燥法について検討した。

1. 試験方法

供試籾は、昭和39年コシヒカリ、昭和40年越路早生の生脱穀籾を用いた。調査用籾は小さな金網箱に入れ調査位置におき、調査の都度取出した。スノコ乾燥区

は金網底の木箱に夫々所定の厚さに籾を入れ、上面を竹スノコで覆い自然乾燥に入り、途中の籾攪拌や移動は行なわず、夜間はビニール又は天幕で覆い露をさけた。蒔干区は半天干、通風乾燥機区は常温通風乾燥とした。

2. 試験結果および考察

第1表 籾水分含量及び籾水分が14%に達する日数

昭和39年

経過日数及び月日 区名	乾燥1日後 (8.18)	同左2日後 (8.19)	同左3日後 (8.20)	同左4日後 (8.21)	上下層の乾燥日差 (日)	必要乾燥日数 (日)
スノコ被覆3cm区	16.5	14.9	12.4	11.4	0.2	2.4
〃〃6〃	17.5	15.6	12.9	11.8	0.4	2.8
〃〃9〃	18.8	17.3	14.7	12.4	0.9	3.6
〃無被覆6〃	16.8	14.6	12.2	10.8	0.2	2.3
延干区(標)	17.6	15.4	13.1	11.8	0.2	2.8
通風乾燥機区(比)	18.3	18.1	16.5	13.3	0.7	4.1

(注) 数値は上、中、下層の平均、脱穀時籾水分24.1%、16時に籾水分測定、刈取8月17日、脱穀8月17日、

昭和40年

経過日数及び月日 区名	乾燥1日後 (8.25)	同左2日後 (8.26)	同左3日後 (8.27)	同左4日後 (8.27)	同左7日後 (9.2)	同左8日後 (9.3)
スノコ被覆10cm区	22.5	21.5	18.0	17.6	15.2	14.8
〃〃15〃	23.2	22.3	12.6	19.3	15.8	15.3
〃〃20〃	23.7	22.7	21.4	19.6	16.6	16.0
〃無被覆15〃	23.7	22.6	20.5	17.8	15.4	15.0
延干区(標)	22.7	15.9	13.5	—	—	—
通風乾燥機区(比)	24.4	23.2	21.5	17.7	14.3	13.8

(注) 経過日数の5日及び6日は省略した。

8月31日、9月1日は降雨であった。

脱穀時籾水分25.1%、外昭和39年に同じ、刈取8月24日、脱穀8月24日、

過去2カ年の試験結果によれば、スノコを利用した早期籾乾燥法は胴割米の発生が極めて少ない。籾の厚さは10cm程度が限界と考えられる。乾燥に好適気象条件が揃えば籾の厚さが10cm程度の場合、昭和39年は4日間で乾燥仕上りになるが、昭和40年のような条

件では延8日間でも乾燥仕上りにならず、乾燥所要日数に大きな差があり不安定である。

従って、この年次の不安定を解消するためにも、籾攪拌を行う等の技術上の改善点が考えられる。